

報告事項 1

平成24年12月定例県議会の概要について

このことについて、平成24年12月3日から12月20日までの会期で開催された定例県議会における教育委員会所管分の質疑状況等について別紙資料に基づき報告します。

平成24年12月20日

総務課

平成24年12月定例県議会代表質問一覧

自由民主党代表質問 吉田 真人

2 活力と魅力あふれる愛知の実現について

(3) 本県におけるスポーツの推進について

現在、スポーツを推進させるための指針となる新しいスポーツ推進計画を策定中とお聞きしていますが、県として今後どのようにスポーツを推進しようとしているのか、教育長の御所見をお伺いいたします。

3 安心・安全な暮らしの実現について

(5) 県立学校の校舎老朽化対策について

県立学校の老朽化対策について、今後、どのような考えで臨まれるのか、知事の御所見を、お伺いいたします。

民主党代表質問 谷口 知美

8 教育環境の整備について

(1) 県としては発達障害の児童生徒が2次障害に陥らないよう、どのように教育環境を整えていくお考えか、教育長にお伺いします。

(2) 名古屋市内への高等養護学校などの設置を始め、愛知県全域の知的障害養護学校の過大化解消に向けて、今後の取組の方向について、どのようにお考えか、教育長にお伺いします。

4 教育の充実について

国語教育について

将来、国際社会に生きる子どもたちにとって、思考活動の基盤であり、我が国の伝統、文化の基盤である日本語をしっかりと身に付けさせることこそ、まず大切にされるべきものであると考えます。そのためには、義務教育段階における国語教育の重要性は論をまたないところであると考えますが、教育長の御所見をお伺いいたします。

【質問要旨】

2 活力と魅力あふれる愛知の実現について

(3) 本県におけるスポーツの推進について

現在、スポーツを推進させるための指針となる新しいスポーツ推進計画を策定中とお聞きしていますが、県として今後どのようにスポーツを推進しようとしているのか、教育長の御所見をお伺いいたします。

【教育長答弁要旨】

本県におけるスポーツの推進についてお尋ねをいただきました。

スポーツは生涯にわたり心身の健康と豊かな人間性を育む基礎となるものでございます。したがって、県民だれもがライフステージに応じた運動やスポーツ活動を、身近な場所で幅広く展開していくことが大切でございます。

そうした場として大きな役割を果たすのが、市町村で設置が進んでおります総合型の地域スポーツクラブでございます。そこで県では、クラブアドバイザーの派遣などを通じましてクラブの育成を図っておりますが、市町村体育協会や学校などとの連携強化が必要不可欠でございますので、今後、各地域での協力のあり方について、関係機関としっかり協議してまいりたいと考えております。

また、特に障害者と高齢者につきましては、健常者と一緒に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動や、健康寿命をのばす運動などを一層充実させていくことが大切でございます。これをスポーツ振興の一環にしっかり位置づけてまいりたいと、このように考えております。

この他、本県の企業や大学には国内外で活躍する選手が多いということがございます。したがって、児童生徒との交流機会を拡大するなど意欲や競技力を高めることで、次世代を担う人材の育成にも努めてまいりたいと考えております。

このような考え方を基本に、活力ある“スポーツ愛知”の実現を目指し、スポーツ推進計画の策定に取り組んでまいりたいと、このように考えております。

平成24年12月定例県議会 代表質問（12月5日） 知事答弁要旨
自由民主党 吉田 真人議員

【質問要旨】

3 安心・安全な暮らしの実現について

(5) 県立学校の校舎老朽化対策について

県立学校の老朽化対策について、今後、どのような考えで臨まれるのか、知事の御所見を、お伺いいたします。

【知事答弁要旨】

次は、私からの最後の答弁になりますが、県立学校の老朽化対策についてであります。

これまで、県立学校につきましては、建物の耐用年数の半ばを目安に、施設の機能回復を図る大規模な改修をしておりましたが、現在は、耐震改修に集中的に取り組んでいることから、抜本的な老朽化対策につきましては進捗が遅れている状況となっております。

しかしながら、私は、その時代の教育ニーズにあった学校の施設環境を整えていくことは、行政として当然のことで大変重要なことと考えております。

これから、生徒急増期に新設した学校が、次々に更新時期を迎える一方で、児童生徒が減少していく状況にありますので、現在の規模のままで更新を進めていくだけでなく、将来的には、教育環境の改善のほか、学校の統合や校舎の集約なども視野に入れながら、検討していかねばならない時期が間違いなくやってくると考えております。

その際、新たな公会計制度で得られる財務情報を活用して、施設の長寿命化を図ると共に、必要なものにつきましては、財政状況に配慮しながらも、順次建て替えを進めることが重要だと考えております。

こうした中長期的な展望を持ち、県立学校全体のマネジメントの考え方に基づいて、計画的に老朽化対策を進めてまいらねばならないと考えております。

【質問要旨】

8 教育環境の整備について

- (1) 県としては発達障害の児童生徒が2次障害に陥らないよう、どのように教育環境を整えていくお考えか、教育長にお伺いします。
- (2) 名古屋市内への高等養護学校などの設置を始め、愛知県全域の知的障害養護学校の過大化解消に向けて、今後の取組の方向について、どのようにお考えか、教育長にお伺いします。

【教育長答弁要旨】

- (1) 教育環境の整備について、二点お尋ねいただきました。

始めに、発達障害のある児童生徒への教育の環境整備についてでございます。

議員お示しのとおり、発達障害のある児童生徒が周囲から孤立し、いじめや不登校などの二次的障害に陥ることがないように適切な指導と支援を行いますことは、重要な課題であると認識しております。

このため、発達障害のある児童生徒一人ひとりの特性を踏まえた適切な指導や支援ができますよう、小・中学校において、自閉症・情緒障害学級を順次増級いたしますとともに、通級指導教室におきましても、担当教員を大幅に増員して個別指導を充実するなど、特別支援教育体制の整備を図っているところでございます。

また、様々な研修を実施し、特別支援教育担当教員の専門性を高めることはもとより、管理職を含めた全ての教職員にも一定の知識や指導法を習得させるよう努めているところでございます。

この他、特別支援学校に配置した特別支援教育コーディネーターの専門性を活かしまして、近隣の小・中学校等に対して、指導方法についての助言や研修への講師派遣、教育相談等を行っております。

発達障害の児童生徒のためには、専門的な知識と経験に裏打ちされた継続的・計画的な指導と支援の充実が、今後ますます重要となってまいりますので、国の定数改善を活用した教員配置の拡大や教員研修の充実、さらには、特別支援学校と小・中学

校等との連携などに一層努めてまいりたいと考えております。

(2) 次に、愛知県全域の知的障害養護学校の過大化解消に向けて、今後の取組方向についてお尋ねをいただきました。

本県の知的障害養護学校の過大化や狭隘化への対応は喫緊の課題であります。

過大化解消につきましては、平成 21 年 6 月に教育委員会が取りまとめた「知的障害養護学校の今後の方策Ⅱ」に基づき、県有施設の活用、高等養護学校の生徒募集増、県立の養護学校の新設、市町村立の養護学校の設置などの対応策を順次実施してきているところでございます。

これまで名古屋市に設置していただいております市立養護学校についても、議員ご指摘のとおり過大化が進んでいることは認識しておりますが、県全体を見ますと、児童生徒数の全国大規模校の上位 10 校のうち、県立知的障害養護学校が未だ 5 校あるという現状があり、これらについて順次過大化解消を図っていく必要がございます。

また、知的障害養護学校につきましては、過大化の解消以外にも、長時間通学の解消や、高等養護学校も含めた高等部生徒の就労支援の充実といった課題もございます。

県といたしましては、今後は、これらの課題を総合的にとらえて、市町村の協力も得ながら、県全体の特別支援学校の整備について、中・長期的な視点に立って取り組んでまいりたいとこのように考えております。

【質問要旨】

4 教育の充実について

国語教育について

将来、国際社会に生きる子どもたちにとって、思考活動の基盤であり、我が国の伝統、文化の基盤である日本語をしっかりと身に付けさせることこそ、まず大切にされるべきものであると考えます。そのためには、義務教育段階における国語教育の重要性は論をまたないところであると考えますが、教育長の御所見をお伺いいたします。

【教育長答弁要旨】

国語教育についてのお尋ねいただきました。

議員ご指摘のように、児童生徒が日本語を身に付けていくことは、ものの見方や考え方、善悪や美意識など、人格形成に大きな影響を及ぼすものでございます。しかし、テレビやインターネット、漫画などの一部に見られますように、いたずらに刺激の大きい表現や乱暴な言葉遣いが多用される昨今の言語環境は、適切な言葉の力や感覚を習得していく上で問題が多いと、このように考えております。

そこで、小・中学校では、論理的に思考・判断し、言葉で的確に表現する能力や、互いの考え方を尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること、さらには、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことに力を入れているところでございます。

具体的には、各学校において、漢字の読み書きをはじめといたしまして、優れた文章を声に出して読んだり、読み取ったことを話し合ったりして、基本的な国語の力を定着させるとともに、詩歌や古典の暗唱などによりまして、言葉の美しさやリズムを体感させるなど、発達段階に応じた言語活動の充実を努めているところでございます。

県教育委員会でも、昨年度より言葉の力を高める学習方法の研究や読書活動の推進に取り組み、学校生活において言語活動を充実させるための手引きというものを作成中でございます。

いずれにいたしましても、人格や日本人としてのアイデンティティを高め、国際社会で活躍できる人材を育てていくためにも、義務教育の段階において、国語教育をしっかりと進めて参りたいと、このように考えております。

平成24年12月議会一般質問一覧

教育委員会総務課

順	氏名	会派	質問項目	担当部局	担当課	備考
1	近藤ひろひと	自民	1 農業の振興について	農水		
			2 障害者福祉について	健福 病院		
2	仲 敬 助	民主	1 県の産業政策と取組みについて	産労		知事 答弁
			2 外国人の在留管理制度について	総務・警察 健福(局)		
3	佐 藤 一 志	自民	1 愛知県のスポーツ振興について			
			(1) 市町村が設置する陸上競技場の現状や問題点について	教育	体育スポーツ課	
			(2) 運動部活動の指導者について	教育	体育スポーツ課	
			2 特別支援学校の整備について	教育	特別支援教育課	
4	いなもと和仁	日本	1 防災対策について			
			(1) 津波火災対策	防災		
			(2) 堤防の緊急点検を踏まえて	建設		
			2 ネットスターカーに対する取り組みについて	警察		
			3 愛知県公立大学法人中期目標の策定について	県民		
5	犬 飼 明 佳	公明	1 災害時における医療体制について	健福(局)		知事 答弁
			2 東日本大震災の被災者支援について	防災		
			3 県有施設の照明器具の省エネ化について	環境		
6	森 下 利 久	自民	1 エネルギー政策について	環境・産労 知政		知事 答弁
7	浅井よしたか	民主	1 公共施設及びインフラの維持・更新に関する長期 財政支出見通しについて	総務		
			2 広域防災拠点整備のあり方について	防災		

順	氏名	会派	質問項目	担当部局	担当課	備考
8	島倉 誠	自民	1 再生可能エネルギーについて	環境 産労		
9	宮地 美角	日本	1 新興住宅地における防犯対策について	警察		
			2 介護給付の適正化について	健福		
10	飛田 常年	自民	1 名鉄西尾・蒲郡線の存続について	地域		
			2 三河湾スカイラインを利用するナイトマラソン大会の誘致について			
			(1) マラソン大会を実現していく上での課題について	教育	体育スポーツ課	
			(2) 蒲郡ナイトマラソンを通じた観光振興について	産労		
11	河合 洋介	民主	1 行政のペーパーレス化への取り組みについて	環境・地域 総務		
			2 長良川河口堰の開門調査について	地域		
12	藤原 宏樹	自民	1 航空宇宙産業の振興について	知政・産労		
			2 介護サービスの質の向上について	健福		
13	日比たけまさ	民主	1 脱法ハブへの対応について	健福(局) 警察		知事 答弁
			2 移動制約者に対する移動策について	防災 健福		
			3 高蔵寺ニュータウンの再生について	総務 建設(局)		
14	伊藤 勝人	自民	1 現代美術について	県民		
			2 防災行政について	防災		知事 答弁

平成24年12月定例県議会 一般質問（12月6日） 教育長答弁要旨
3番 自由民主党 佐藤 一志議員

【質問要旨】

1 愛知県のスポーツ振興について

(1) 市町村が設置する陸上競技場の現状や問題点について

教育委員会は、市町村が設置する陸上競技場の現状や問題点について、どのように受け止め、どのように考えているのかお尋ねします。

(2) 運動部活動の指導者について

運動部活動の指導者について、どのような課題があり、また、その課題にどのように対応しているのかお尋ねします。

2 特別支援学校の整備について

県は現状として、知的障害養護学校の過大化への対応を、どのように進めているのかまた、今後の検討の中で、半田養護学校については、対応をどのように考えていくつもりなのか、教育長に伺います。

【教育長答弁要旨】

1 (1) 愛知県のスポーツ振興についてのお尋ねをいただき、まず市町村が設置する陸上競技場の現状認識等についてお答えいたします。

県内には、設置年度はそれぞれ異なりますが、議員御指摘のとおり国際大会等が開催できる第1種公認の名古屋市瑞穂公園陸上競技場をはじめといたしまして、公認を取得している陸上競技場が15施設ございます。

公認を取得している陸上競技場は、5年ごとに公認を更新するための工事が必要でございまして、多額の経費がかかりますことから、公認のランクを下げた更新した陸上競技場も見受けられるように、どの自治体も公認の維持には苦勞しておられるのが現状でございます。

しかし、県の施設と合わせて、このような広域的な役割を果たす市町村管理の陸上競技場が県内の主要地域に配置されておりますことが、本県全体の陸上競技振興のためには必要不可欠であると認識いたしております。

その意味で、長年にわたり尾張・知多地区の陸上競技の普及、振興に大きく寄

与してきた知多運動公園陸上競技場が、知多市の御尽力によりまして第2種公認として維持されたことは、大変意義深いものと考えております。

いずれにいたしましても、今後とも県、市町村がそれぞれに果たしている役割を十分に認識し、連携・協力しながら、施設の機能維持に努めてまいりたいと考えております。

(2) 次に、運動部活動の指導者についても御質問をいただきました。

運動部活動は、体力の向上のみならず、人間関係の大切さを学ぶことができる活動でありまして、学習指導要領にも「学校教育の一環」と位置づけられているところでございます。教育委員会としましても、その意義や位置づけを踏まえ、学校長の責任のもとで、適切な指導者を得て学校全体で推進をしていくことが重要であると考えております。

しかしながら、御指摘のとおり、学校によっては指導者が見つからず、十分な活動ができないといった種目があったり、専門種目ではない部活動の顧問となり、指導に不安を感じる教員もいるというような課題がございます。

このため、対応策のひとつとして、外部指導者の効果的な活用に取り組んでいるところでございます。教育委員会の予算措置や国の制度を利用するなどいたしまして、名古屋市を除く県内の中学校では8割以上、県立高等学校では9割以上の学校で外部指導者を活用している状況となっております。

また、運動部を指導している教員の中で経験の浅い者に対しましては「運動部活動指導者研修会」というものを毎年度実施し、指導力の向上を図っているところでございます。

今後も、運動部活動の意義を踏まえまして、外部指導者の活用を充実させますとともに、教員についても部活動指導力の向上を図りながら、学校における部活動を充実させてまいりたいと考えております。

2 次に、特別支援学校の整備についてお答えしたいと存じます。

知的障害養護学校につきましては、議員お示しの半田養護学校を始め、その他の地区におきましても過大化解消が喫緊の課題となっているところでございます。

現在の取組でございますが、尾張地区におきましては、一宮東養護学校及び佐織養護学校の過大化を解消するため、稲沢市内に、平成26年度開校を目指して、県立の特別支援学校の建設工事を進めているところでございます。

また、東三河地区におきましては、豊川養護学校の過大化を解消するために、豊橋市のご決断をいただきまして、平成27年度に豊橋市立の特別支援学校が開校予定となっております。

半田養護学校につきましては、平成21年度にまとめた「知的障害養護学校の今後の方策Ⅱ」におきまして、知多地区の県有施設を活用した養護学校の設置について検討するという事になっておりますが、今後、関係市町の意見も伺いながら、早急に検討の結果をとりまとめてまいりたいと、このように考えております。

いずれにいたしましても、知的障害養護学校の過大化や長時間通学への対応を始め、本県の特別支援教育にかかわる課題を総合的に整理をしていく中で、県全体の特別支援教育の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

【要望要旨】

先ほども説明させていただきましたように、陸上競技場のランクを維持するには特に前年度に多額の費用がかかり、各市町は非常に苦勞しているところであります。このままいけばランクを下げざるを得なくなる施設が増え、愛知県内で国際大会等大きな大会ができなくなる可能性が出てきます。

知多市や愛知県の子どもたちが大きな競技場で競技ができることを夢見て、練習に励んでいる姿を見ますと、愛知県と愛知陸上競技協会が協力し、統括的に管理をすることが望ましいと考えております。ぜひ御検討いただくよう要望します。

また、部活動については、私が調べましたところ、愛知県内にもサッカー部のない学校はたくさんあります。しかし、この中学校については、10年前までサッカー部がありました。そういう中、この中学校ではサッカーのクラブチームと学校の部活動と共有できないということでサッカーの部員数が足らなくなり、サッカー部を廃止し、柔道部を設置しました。義務教育の中でクラブチームと部活動が兼ねることができないのは不自然なことであると思っております。この問題は、クラブチームの元となる競技団体との話になると思っておりますが、御検討をしていただければありがたい。

最後に半田養護学校でございますけれども、先ほど言いましたように、知多半島の東浦に入居施設が、この25年度に開所します。一度に40人も入れるところありますので、生徒たちが半田養護学校に登校するという事であれば、生徒が増え本

当に大変なことになります。

先日、学校祭におじゃまさせていただきました。子どもたちの笑顔と熱演に涙したところでもあります。その帰りに校長先生から話を聞きました。作業室を半分にして教室にしているというお話でございました。過大化による狭隘化が進んでいる現状を見ると、本当に教育環境の悪さが目につくわけであります。お聞きすると、知多北部で230名くらいの生徒さんが、今、半田養護学校に通っているそうでございます。真剣に半田養護学校の新設といたしますか、新しい学校を造っていただいて、知多北部を中心に新しい養護学校ができることを強く要望して私の質問を終わります。

【質問要旨】

2 三河湾スカイラインを利用するナイトマラソン大会の誘致について

(1) マラソン大会を実現していく上での課題について

教育委員会として、このマラソン大会を実現していく上で、どのような課題があるとお考えか、お尋ねいたします。

【教育長答弁要旨】

(1) 蒲郡のナイトマラソン大会の開催についてお尋ねをいただきました。

地域の特色を活かしながら、スポーツイベントを開催することは、本県のスポーツ推進を図る観点からも意義あるものと考えております。

特にマラソンは、健康の保持増進、体力の向上、ストレス解消等に効果がありますため、今や老若男女を問わず、誰もが楽しめるスポーツとして定着をいたしております。本県におきましても、市町村を中心に駅伝も含め、数多くの大会が開催されておりまして、参加申込が開始されてわずか数時間で定員に達してしまうほど人気のある大会もあるようでございます。

御質問のございました、蒲郡市内で計画されている三河湾スカイラインを利用したマラソン大会についてでございますが、詳細は把握しておりませんが、夕方から夜にかけての暗い時間帯に開催されるナイトマラソンであること、それから、高低差が300mと過酷な条件のフルマラソンであること、さらには、残暑が厳しい時期の開催となることなどから、特に安全面、健康面に大きな課題があるのではないかとこのように考えております。

従いまして、イベントの企画・立案にあたりましては、練習を積んだランナーに参加していただく等の参加資格や熱中症対策、緊急車両の動線確保など、安全な大会運営について十二分に検討していただく必要があると、このように考えております。

【要望要旨】

ナイトマラソンの誘致ではありますが、地元の商工会議所青年部のメンバーが行政や企業を巻き込んで町おこしをしようと本当に頑張っておるこの企画であります。

私も28年前、1984年の27歳の時ではありますが、蒲郡市制30周年記念第1回三河湾健康マラソン大会というのがこの三河湾スカイラインで開催をされました。その時に10キロm男子の部に出場した覚えがありまして、大変アップダウンが激しくて、起伏に富んだコースであります。未だにその時の思い出もよみがえってまいりますし、その時の記念ペナントも未だに残っておって、大変感慨深いものがあります。三河湾健康マラソンは、現在はスカイラインを使用せずに市内の平坦地で開催しておりますが、是非この大会がですね、起爆剤となって、県内のさらなるスポーツの振興と観光振興に繋がることを望むところであります。

県警本部におかれましても、交通規制や安全面には十分気を付けていかなければならないと思いますが、企画書があがった段階で是非とも御配慮をいただきたいと思っております。

平成24年12月定例県議会文教委員会(12月17日)

○議案審査(4件)

第156号議案

平成24年度愛知県一般会計補正予算 第5号

第1条 歳入歳出予算の補正の内 歳出 第11款 教育費

第173号議案

愛知県立学校条例の一部改正について

第179号議案

訴えの提起について(奨学金貸付金返還請求事件)

第180号議案

損害賠償の額の決定及び若い和解について

【議案質疑】

なし

【一般質問】

直江 弘文 委員(自由民主党)

○教員の不祥事について

- ・不祥事防止に向けた取組・教員研修

小出 典聖 委員(自由民主党)

○教員の不祥事について

- ・原因究明・防止に向けての病理的視点における研究チームの立ち上げ

東 裕子 委員(減税日本一愛知)

○帰国児童生徒の受け入れについて

- ・小・中学校、高等学校での受け入れ実績
- ・小・中学校、高等学校での取り組み

野田 留美 委員（減税日本一愛知）

○教職員のメンタルヘルスについて

- ・病気（精神疾患）による休職者の状況
- ・メンタルヘルス対策

犬飼 明佳 委員（公明党）

○愛知県スポーツ会館の見直しについて

- ・現在の検討状況
- ・策定中のスポーツ推進計画における高齢者支援の観点での考え方

谷口 知美 委員（民主党）

○へき地教育の充実について

- ・県教育長のへき地学校（豊根村立富山小・中学校）視察の感想

○特別支援学校の就労支援について

- ・特別支援学校の就職率と職業教育及び進路指導
- ・就労支援の課題と今後の取組

吉田 真人 委員（自由民主党）

○土曜授業について

- ・新学習指導要領全面実施による授業時間数増加の対応
- ・他都府県の状況とその分析・研究